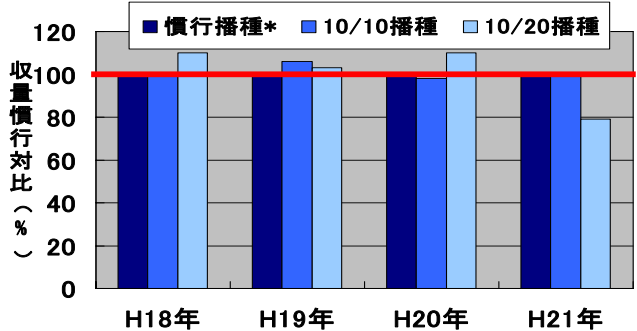
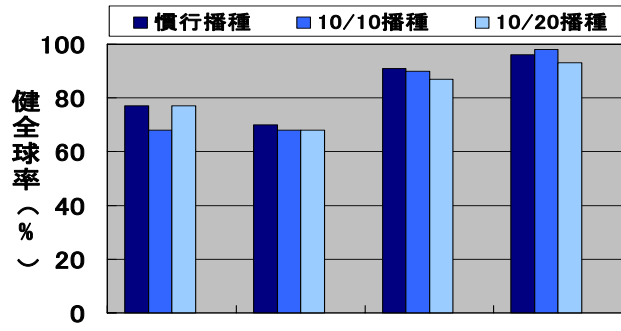


タマネギの播種時期を遅らせて台風被害を回避・軽減

【背景・目的・成果】タマネギの播種(9月下旬)は、台風等の気象災害を受けやすい時期と重なります。そこで、台風接近頻度が大幅に減少する10月以降に播種を遅らせることで被害を回避・軽減する作型について検討しました。その結果、肥大性の高い中生種「ターザン」を用い、10月10日頃までに播種、年内に定植する作型は、機械移植精度、収量性・貯蔵性の低下がなく、台風等の災害回避・軽減が可能であることを実証しました。



慣行播種収量(/10a) H18年7.3t H19年9.2t H20年6.3t H21年7.0t



慣行播種 10/10播種 10/20播種

「ターザン」の10月10日播種の収量は、慣行播種と同等で、肥大性のよい「ターザン」が遅まきに適した品種であることがわかった。

遅まきによる健全球率への影響はなく、吊り小屋での短期貯蔵性は同等である。

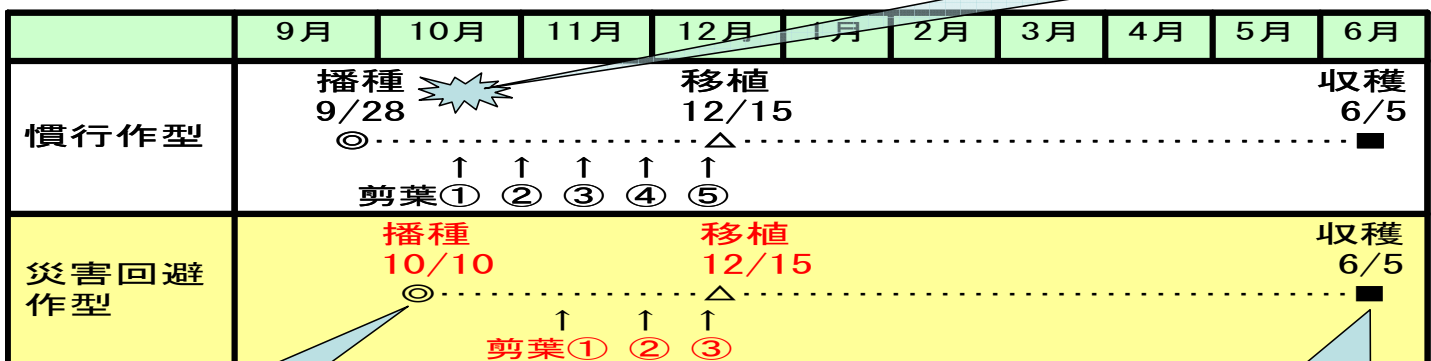


播種期	慣行	10月10日	10月20日
剪葉回数	4~5回	2~3回	1~2回

定植時の苗(ターザン)

慣行播種に対する10月10日播種の苗重比は80%程度、3.5葉の下葉枯れの少ない健全苗が育成可能で、移植精度の低下もない。また、剪葉回数が2回以上削減でき、育苗作業の省力化にもつながる。

万一の苗床被災時の播き直しには「ターザン」を利用



播種期を遅らせ台風回避

育苗期間短縮により剪葉など育苗作業の省力化(17h→15h 約12%短縮)

慣行作型と同等の収量性が確保

【技術の活用】慣行播種時期に気象予報で台風発生、接近が予測される場合に、播種期を遅らせ台風の回避を図ります。